

地域づくり活動 NPO 事業助成（連携重視）事業 実績報告

団体名	プラットフォーム淡路島	代表者名	代表 清水 照男
事業名	プラットフォーム淡路島 島人と災害時の継続計画づくりで、より安心して暮らせる地域づくりを進める。		

<事業実施実績>

年 月 日	活 動 内 容
2021年4月19日	第1回企画運営会議（洲本総合庁舎） 事業計画（案）
5月20日	防災・減災の取り組み活動打合せ（洲本総合庁舎） 事業計画の策定
5月25日	令和3年度総会・第2回企画運営会議（洲本総合庁舎） 事業報告、収支・監査報告、事業・予算計画・役員改選
6月25日	第3回企画運営会議（洲本総合庁舎） 事業の遂行・役割分担の確認
8月30日	第4回企画運営会議（洲本総合庁舎） 事業の遂行状況と確認・協議
10月19日	第5回企画運営会議（洲本総合庁舎） 事業の遂行状況と確認・協議
11月20日	「転ばぬ先のプランづくり」（基本編）（南あわじ市広田公民館） 講演・活動発表・ワークショップ
11月27日	「転ばぬ先のプランづくり」（実践編）（南あわじ市広田公民館） プランづくり（3つのパターン）ワークショップ
12月20日	「しまびと交流会」打合せ会（淡路夢舞台・（株）パソナグループ内） （株）パソナグループと打合せ
2022年3月7日	「しまびと交流会」の開催（のじまスコーラ） （株）パソナグループの移住者との懇談・交流
3月22日	第6回企画運営会議（洲本総合庁舎） 令和3年度のふり返し・令和4年度の事業計画

<効果と成果>

事業者やリーダー（市民も）は災害、疫病、緊急事態（原発事故、他国の攻撃など）の可能性は常に想定していなければならない。それに対処する方策、行動などをプランとして文書化し、発生時に十分機能されるようにしておくべきである。作成に当たってはリーダーだけではなく、リーダーを含めた責任ある方々と共に熟考し、関係者に共有しなければならない。事業継続プランは防衛処置であり、家族や関係者の幸せな暮らしに寄与し、復興、復旧、立ち直りに多いに役立つ。そのプランは常に検証され、見直され、実情にあったものにする必要があるのは当然である。プランを「作ること」が目的ではなく、多くの教訓や知恵を集め、「魂の入った」プラン作成を望む。そのプランづくりやプランに対して傍観者であってはならない。

島は少子高齢化・若者流出が顕著である。縁あって淡路島に移住される方の生活のカタチ（強い意思、憧れ、働き方、生活の質など）は様々である。事業の第2拠点として淡路島で展開する（株）パソナグループの移住社員のカタチもある。島に移住した方は働く場だけでなく、日常の暮らし、近隣との付き合いや教育、医療の切実な課題にさらされる。島の現状を打破する起爆剤として居住者になってもらい感謝する反面、移住した方の価値観の違いによる生活の変化や思い悩みも心配になる、スムーズに暮らしてもらうため、話し合いや交流の機会を多く作り、双方の垣根を低くする努力が必要となる。「より長く住み続けてほしい」と願い、暮らし易い環境を双方で考えていきたい。本交流会でその第一歩が踏み出せた。

<収支決算書>

(収入)

項 目	金 額 (円)
地域づくり活動 NPO 事業助成金	400,000
自己資金	38,544
合計	438,544

(支出)

区分	項 目	金 額 (円)	左のうち 助成対象金額 (円)
直接 経 費	謝金	83,550	83,000
	人件費	24,000	24,000
	交通費	204,662	175,000
	その他 (会場費、印刷費等)	92,703	92,000
	小 計	404,915	374,000
	間接経費 (一般管理費)	33,629	26,000
	合 計	438,544	400,000